

【海軍兵学校卒業証書】

卒業入学シーズンを迎え、本格的な芽吹きの子供・春の訪れが感じられるようになってきました。

今回ご紹介する“イッピン”は、實が通っていた海軍兵学校の「卒業証書」です。

明治6（1873）年9月、16歳の實は海軍兵学寮（のちに「海軍兵学校」と改称）の入学試験を受験し、同年10月27日に海軍兵学寮予科生として入学しました。

海軍兵学寮は、教育方針が一切英国士官に任され、授業はすべて英語で行われたため、漢学で受験した實にとって初めのうちはかなり苦労しましたが、骨身を惜しまず勉強した結果、苦手の英語も2年でマスターするほどみるみる上達しました。

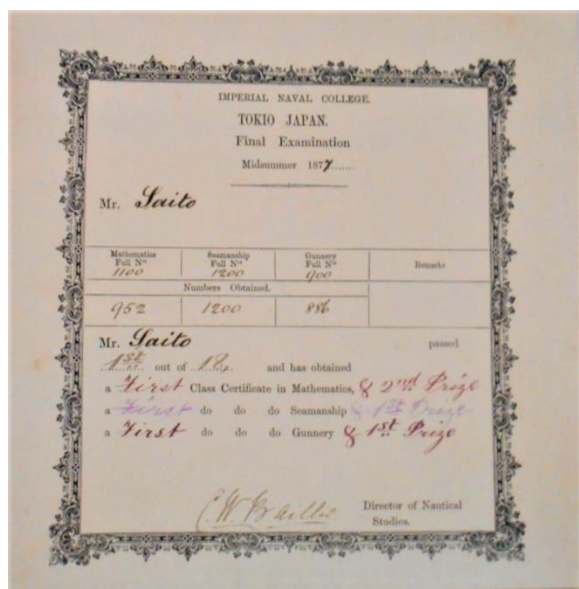
予科1年本科3年の課程を修了し、明治10（1877）年本科を卒業します。英文で記された成績表の内訳を詳しく見ると、Seamanship（運用・航海術）は1200点満点中1200点、苦手であったMathematics（数学）も1100点満点中952点で2番、Gunnery（砲術）は900点満点中886点という好成績を収めています。本科を卒業後、練習艦への乗船を命じられた際には、成績優秀にして首席を占めるに至ったため「海軍兵学校沿革」には次のように實の名前が記録されています。

『明治11年1月14日 本校卒業生徒齋藤實以下18名ハ實地練習ノ爲メ乾行艦^{けんこう}*乗組ヲ命ゼラル《原文ママ》』

練習艦での訓練を終え、明治12（1879）年7月、海軍兵学校を卒業します。この卒業証書の学校長には、のちの岳父となる仁礼景範^{にれかげのり}の名が刻まれています。

兵学校の本科を18人中1番で卒業し、2年後の卒業大試験を3番で卒業するという實の姿は、類まれなる努力家・勤勉家であったことがよく表れており、人格の完成、政治家としての大成もすべてこの性格の発露であったといわれています。

*1859年英国リバプールにて建造された3本マスト木造機帆砲艦。元の名をストルクと称したが、後に薩摩藩が購入した際に「乾行艦」と命名された。



英文で記載された海軍兵学校本科卒業試験成績



海軍兵学校卒業証書
(表題は「海軍學術卒業證書」と記されている)